

伝統ネットワークから趣味ネットワークへの可能性 — 中国人社会ネットワーク研究に着目して —

同志社大学大学院 巴芳 (BA Fang)

1. 本研究の背景

近年、中国社会における社会ネットワークの研究が注目を集めている。2003年から開始された「中国総合社会調査」(CGSS)においても、ネットワーク項目が多く尋ねられており、通時的分析あるいは中国社会と先進諸国の比較が可能になってきている。本報告では、CGSSの調査分析をはじめ、中国における社会ネットワークの実証的研究を概観し検討する。特に、人々の生活にアプローチする際に重要な論点のひとつである友人づきあいや文化的ネットワークに焦点をあてる。また、在日中国人社会における研究では、伝統的なエスニック・グループから個人ネットワークへの大きな趨勢があり、その知見をまとめ、さらに今後の研究のいくつかの指針を見出すことも本稿のねらいである。

2. 趣味ネットワークへの注目

経済成長につれ、中国社会も中流層が拡大し、階層構成も多様化してきている。中国社会における社会関係の大きな変化は、組織的な結合から緩やかなネットワークへという流れがある。CGSSデータによるパーソナル・ネットワークの分析から、それを明らかにする。相談、拜年ネットワークの分析結果では、親戚の次に友人が挙げられている。そして、友人の割合が増加傾向にあることが明らかになった。従来、中国社会については親族や宗族といった強固で閉鎖的な結合に関心が向けられることが多かったが、今後は「緩やかな友人とのつながり」という新たな視点をもった研究が重要になるだろう。

本稿では、友人ネットワークの一形態として趣味ネットワークに注目する。経済成長にともなって余暇生活の重みが大きくなってきたところから、趣味ネットワークが今後の重要な論点になるだろう。実際に、在日中国人社会における個人主義化への転換のなかで、エスニックなコミュニティへの参加が趣味ネットワークに置き換えられる(特に)若者の事例もある。同様に、中国本土においても伝統的な結合形態からの離脱が趣味ネットワークによって促される可能性も大きい。

3. CGSS データ分析

表-1 パーソナル・ネットワークの分析-1
CGSS(2003)相談ネットワークにおける相談対象の属性(%)

相談対象	一人目	二人目	三人目	四人目	五人目
家庭成員	54.9	28.9	19.1	12.0	9.5
親戚	12.0	22.2	23.1	22.5	20.1
友人	17.0	24.6	29.3	32.4	34.8
同僚	8.9	14.3	17.0	19.6	20.8
近隣	5.5	7.9	9.2	11.2	12.0
その他	1.7	2.1	2.3	2.4	2.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
サンプル(n)	5567.0	4513.0	3483.0	2383.0	1851.0

(相談ネットワーク：日常生活の中で、重要な問題を相談する相手から形成されるネットワークである。相談する内容：CGSS(2006)調査質問により、具体的な用事がある/感情・精神的な問題/生活/仕事/その他の内容が中心になっている。)

表-2 パーソナルネットワーク分析-2
CGSS(2003, 2006) 拜年する対象構成と数量 (%)

		0人	1-5人	6-10人	11-15人	16-20人	20人	合計	サンプル(n)
2003	親戚	6.7	18.7	28.4	13.4	16.7	16.4	100	5837
	友人	25.7	28.3	25.5	6.1	7.1	7.2	100	5716
	その他	70.7	11.3	9.2	1.9	3	3.9	100	5390
2006	親戚	5.6	18.4	34.9	11.7	16.4	12.9	100	5580
	友人	16.8	33.8	30.8	6.2	8.3	4.1	100	5586
	その他	46.8	21.2	19.7	2.7	5.4	4.2	100	5390

(拜年ネットワーク：最も伝統的な祭日である春節期間に、人々が新年の挨拶をおこなう際の社会ネットワークのことを指す。これは中国の伝統文化の下で、人々が人脈関係を維持し発展させるための独特なネットワークといえる。この拜年ネットワークに関しても、日常生活の重要な問題を相談するネットワークと同様に、個人レベルのつながりが広がる傾向がみられる。)

表-3 余暇活動の社会ネットワーク
CGSS(2005)一年間でよく参加する 仕事以外の団体活動 [多項選択]

	参加(%)
コミュニティ・ボランティア活動	24.9
スポーツ	24.4
同級生・同じ職業・同じ出身地などの集まり	19.7
エンターテインメント・文化芸術	19.0
個人的な技術・能力	18.4
教育	17.9
宗教	5.8
サンプル(n)	10372.0

仕事上の付き合いに関する分析では、同じレベルの同僚とよく「打交道」(人々と付き合い合う、行き来すること)し、次に、お得意先の客さんやクライアントとなっている。そして、ジュニアの同僚との「打交道」が三位となっている。四位の上司との「打交道」の割合は、2003年から2006年には減っていくようである。「関係」を大事にする中国社会では、仕事上の付き合いは必要だとされているが、それから解放され、もっと緩やかな友人関係から結ばれるネットワークが求められつつある。

近年、中国政府が国民健康のため、公園や社区などにおいて活動場所をたくさん提供している。それにつれ、趣味のためのクラブやサークルに参加する者が急速に増えてきた。現代の中国社会、特に都市部においては、趣味のため余暇時間を利用することが、市民の精神的な健康をもたらしているのである。近年の中国において、趣味活動として最も頻繁におこなわれているものといえば、スポーツである。特に、最近の中国都市社会では、社区において市民が自発的につくるスポーツサークルなどがたくさん現れてきている。

4. 中国本土における趣味ネットワークのフィールドワーク

2010年6月から、中国瀋陽市におけるフィールドワークを始めた。遼寧省社会科学院を訪ね、瀋陽市における余暇活動をおこなうグループの紹介を受けた。その際、社会階層・年齢層・性別などを基礎条件として、4つのグループを調査対象とした。

α. 毬球(ジエンキユウ)クラブ — 労働公園チーム: 毬球は中国でもっとも人気のあるスポーツの1つである。特に、最近2年間で競技人口を増やしている。参加する人数が最も多い趣味ネットワークである。

➢平日の朝晩や休日に活動を行う。毎月 10 元ほどの会費を集めて、道具を購入したりする。活動する場所は、体育館や地域の公園である。体育館利用には料金がかかるので、AA 制(割り勘)で払う。年齢層は、30-55 歳を中心としている。

b.バドミントン健偉(ケンイ)クラブ: 中国で若者の間でもっとも流行している余暇活動である。毬球より、道具や服装などに費用がかかるため、経済的な条件が要求される。

➢基本的には週末に活動をおこなう。毎月の会費は 200-300 元ほど(場所の利用に対する費用)。参加者はブランドの服装や道具を購入する傾向にある。仕事を持つ人が多いので、自分の都合をみつけて参加している。活動場所は体育館内である。20-40 歳を中心とする若者が多い。

c.我行我宿クラブ(アウトドア): キャンプ/登山/自転車/テニス/水泳など様々な野外活動をおこなうクラブだ。参加しているメンバーも年齢的に若く、大学生もいる。

➢活動は週末におこなう。みんな QQ (チャットソフト) で毎日連絡して、都合の良い日を決定し活動する。活動以外でも食事会や旅行で集まったりもする。夫婦で参加している場合もある。一定の会費はないものの、活動する当日に発生する料金はみんなで分担している。

d.書道クラブ: 書道をおこなうグループである。参加する人に中年層が多い。毎週活動を行う。書道展などをおこなったり、他の書道展に参加したりする。

➢メンバーの年齢幅は広い。会費は、毎月多少変わるが、基本的には 50-100 元の間である。これは活動場所の利用料金や道具を購入するためである。

◆インタビューや参与考察

個人/グループへのインタビューや参与考察を行い、それぞれのグループに伺った。クラブに参加する目的は、趣味/健康/交友となっている。基本的には、週末に参加するメンバーは平日より多く、活動する時間も長い。活動する場所に限りがあるので、待っている間に、会話したり、トランプをやったりしている。その後、メンバーもそれぞれ変わるが、食事会に行ったりする。それ以外、年中行事であれ結婚式であれ、趣味の友人と交流するのが一般的となっている。趣味クラブを介して知り合う友人とは、緩やかな関係を保持し、生活/仕事などに関する社会的な情報を交換している。

5. 終わりに

「趣味ネットワーク」とも呼ぶことができるこの新しいスタイルの社会ネットワークは、個人が自らの趣味のために参加するクラブやサークルを通じて形成されるため、友人ネットワークの一部として位置づけることができる。しかも、人口が集中している中国都市部においては、人々が伝統的な人間関係から解放されることにより、社会ネットワークは個人により選択されるようになってきている。それゆえ、趣味ネットワークのような緩やかな友人関係は、現代の人々にとって非常に重要なものとなっている。自己実現の「場」を求めスポーツなどの趣味活動へ参加する現代中国の人々にとって、そのネットワークがさらに彼らの社会生活を豊かにしていく可能性が大きいといえる。

さて、趣味に割く時間が多くなればなるほど、当然ながらそうした生活の中で形成されるネットワークにも変化が生じることになる。すなわち、趣味のためのクラブやサークルなどの中で形成されるネットワークが増え、さらに、その趣味の活動に重きが置かれるようになればなるほど、そこでのネットワークというものもまた、人々の生活の中で重要な位置を占めるようになるのである。

そして、CGSS のパーソナルネットワークに関するデータ分析の結果、伝統な親族や宗族

より、友人関係など個人レベルでの弱い紐帯の重要性が増しつつあると考えられる。中国本土および在日中国人の社会ネットワークに関する研究によっても、かつての集団的な結合から、個人的なものとしてとらえられるようになってきている。パーソナルなネットワークへの転換の中で、本稿では友人ネットワークの一形態として趣味ネットワークというものが今後重要な論点となる可能性を示した。個人主義と自由への志向が強い中、相互信頼を形成するために友人ネットワークは重要な社会的基盤となりつつある。

◆情報の獲得とパーソナルな趣味ネットワーク

趣味によって形成されるネットワークは、人々を緩やかに結びつける新しい社会関係を形づくる。人々は趣味活動の楽しさゆえに、ネットワークに参加する。したがって、旧来の伝統的な社会関係に比べ、より緩やかなつながりが生じることになる。しかし、緩やかではあるがネットワーク内でのコミュニケーションは活発なものであり、人々の心を繋がりやすくする。さらにコミュニケーションの浸透により、社会生活に関する便利な情報を得やすくなるという、情報交換の手段としても機能するようになるのである。

Granovetter(1973)は、多くの弱い紐帯を持つと情報収集に有利であると指摘している。そして、特定の強い紐帯を持つ人よりも、多くの弱い紐帯を持つ人の方が良い情報を獲得できるとしている。本研究から、趣味ネットワークとは緩やかな関係であり、「弱い紐帯」を選択できる幅広い関係性だと考えることができる。

【参考文献】

- 1) 罗家德, 2008, 「社会网络和社会資本」李培林, 李强, 馬戎編, 2008, 『社会学与中国社会』社会科学文献出版社
- 2) 野沢慎司編, 2006, 『リーディングス ネットワーク論——家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房
- 3) 韓春利, 曹莉, 孫晋海, 王秋華, 2008, 「我国体育人文社会学发展现状、问题与对策研究」『北京体育大学学报』31(9)
- 4) 辺燕杰, 2004, 「中国城市中的关系資本与飲食社交: 理論模型与經驗分析」『開放時代』2004年第2期
- 5) Granovetter, Mark S.(1973). "The Strength of Weak Ties." *American Journal of Sociology*, 78: 1360-1380